

論 文 要 旨

氏 名	山口 摂崇
タイトル (日英併記)	Association between dental status and hypertension in Japanese factory workers aged 55 years or older: A cross-sectional study 55 歳以上の日本人製造業労働者の歯科疾患と高血圧との関連
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>55 歳以上の製造業労働者は高血圧及び心血管疾患発症のハイリスク群であることが知られている。一方、う蝕、歯周病、歯の喪失は、高血圧および多くの心血管疾患のリスク因子との関連が示唆されている。そこで本研究の目的は、55 歳以上の日本の製造業労働者において高血圧の人は正常血圧の人よりも心血管疾患のリスク因子である歯科疾患が多いという仮説を立てた。北九州地区の 55 歳以上の製造業労働者 167 名を対象とした横断研究を実施した。対象者の選定においては、除外基準を労働安全衛生法施行規則第 22 条第 3 項に規定される有塩酸、硫酸、硝酸、亜硫酸、フッ化水素、黄りんその他歯又はその支持組織に有害な物のガス、蒸気又は粉じんを発生する場所における業務を行う対象者とした。対象者基本情報（年齢、勤続歴、性別、教育歴、職場、肥満の有無、喫煙状況、飲酒量、運動習慣、睡眠時間、労働時間）は質問紙調査で取得し、血圧ならびに歯科的項目データは歯科健診時に取得した。American Heart Association の基準に基づき、高血圧症者と非高血圧症者とに群分けした後、対象者基本情報をもとに算出した傾向スコアによるマッチングを実施した。傾向スコアマッチング条件は許容度± 0.3 の 1:1 マッチングとした。傾向スコアマッチングは標準効果量を用いて評価した。その後、メインアウトカムである歯科項目についてカテゴリー変数はχ^2検定または Fisher's exact test を分布に応じて適切な方法で解析した。連続変数は Kolmogorov-Smirnov の正規性の検定を実施したところすべての変数で非正規性だった。そのため、Mann-Whitney U test で解析した。統計的有意差は P values < 0.05 とした。</p> <p>なお、傾向スコアマッチングならびに統計解析は SPSS 24 statistical software package (SPSS Japan Inc., Tokyo, Japan) を用いて実施した。</p> <p>傾向スコアマッチングにおいては、対象者基本情報のうち、性別、肥満、喫煙歴、労働時間の 4 項目において、高血圧群と非高血圧群の群間の差は調整できていた。高血圧症者は非高血圧症者と比較して、う蝕歯数が有意に多く ($P < 0.05$)、処置歯数が有意に少なく ($P < 0.05$)、歯周病の重症度が悪い傾向があった ($P < 0.05$) が、現在歯数に有意差は認めなかった。</p> <p>この結果から、高血圧及び心血管疾患発症のハイリスク群である 55 歳以上の製造業労働者において、高血圧と歯科疾患に関連性がある可能性があることが示唆された。</p>	